

令和 4 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針		1 地域社会の担い手として、国際感覚豊かで産業経済の発展に寄与する健全な人材の育成 2 教員の生徒と向き合う時間の確保やワーク・ライフ・バランスの浸透の推進		
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標		
<成果> ○ 高校生活の満足度は、昨年度より増加し、保護者からの評価も高い。 ○ 就職、進学ともに、計画的に指導を進め、高い達成率と満足度をあげた。 ○ コロナ禍ではあったが、運動部、文化部、多くの部が前向きに部活動に取り組むことができ、全国大会に出場し、成果をあげた。	○ 基礎学力の定着とともに、多様な学びを促進する授業づくり。 ○ 生徒の自立意識の涵養と豊かな人間性の育成	○ ICT機器（タブレット等）を利用した授業改善も含め、生徒が興味関心を持ち、基礎・基本の定着と主体的に学ぶ姿勢の育成 ○ 学年・教科で工夫・連携し、家庭での学習習慣の確立や臨時休業日での遠隔授業の推進を図る。 ○ 体力・気力の充実した人材育成のため部活動等の一層の活性化 ○ 充実した学校行事、生徒会活動などへの積極的な取り組みを促し、その中で豊かな人間性を培う。 ○ 気になる生徒の様子について、いじめ防止委員会、特別支援教育委員会を中心に、担任、学年、分掌、職員会議で情報共有する。 ○ インターンシップをはじめ、キャリア教育の充実と職業観・勤労観を醸成し、生きる力を育てる。 ○ 地域や生徒のニーズを踏まえ、専門教育の充実を図る。 ○ ホームページやグーグルクラスルーム・保護者向けメール等を活用し、学校に関する情報を提供し、家庭・地域との連携を図る。 ○ 地域イベントに参加し、積極的な交流をすすめる。		
<課題> ○ 魅力ある学校づくりとして、地域と連携した取組がコロナ禍の影響で十分な活動ができなかった。違う形での取り組み方が課題である。 ○ 基礎学力の定着に努めるとともに、ICT機器を使い生徒に興味関心を持たせ、主体的、協働的に学ぶ姿勢を育成する。	○ 生徒の発達段階に応じたキャリア教育の充実 ○ 特色ある教育活動の積極的情報発信			
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
総務部	【教務係】 授業時数の確保のために、自習を少なくするなどして、実質授業時間を確保する。	実施すべき授業時数(教科29単位×35週、総合的な探究の時間35単位、LHR35単位)以上を確保する年間授業計画を作成する。また、突発的な事象が発生した際には時数確保のための方策を講ずる。 クラブ活動の各種大会やその他による出張の際に、授業変更などをして自習時間を極力出さないように喚起し、実質的な授業時数を確保する。		A

		授業の開始・終了時間を守り、52分間の授業時間と授業時数の有効活用を図るよう全職員に喚起する。		
	学校PRを強化する。	ホームページを、できる限り多く更新し、ページの改善に努めて、多くの人たちに頻繁にアクセスしてもらえるようにし、12000アクセスを目指す。また、緊急時には適切な情報を提供する。 中学生の体験入学をより充実したものにして、本校の魅力をPRしていく。 『学校案内』を毎年更新して、より充実したものにしていく。	A	
	奨学金の広報を充実させる。	高校生活を安心して過ごせるため、また、卒業後の進学を選択できるように奨学金の案内や広報を充実させる。	A	
	I C T教育を推進する。	生徒1人1台配付されるタブレットを、授業などの学習活動で有効活用できるよう、P Cによる校務作業がスムーズにできるよう、各学期に1回程度の研修会を計画し、I C T支援員との連携しながら研修体制を充実させる。	A	
	【企画・運営係】 校内の視聴覚機材の充実と点検整備	他分掌や教科、部活動などと連携しながら、通常の学校生活及び緊急時の視聴覚・放送設備などの充実と点検をし、円滑な使用ができるよう整備に努める。	A	
	本校の教育方針に基づき、その振興を図るための様々な事業を行う。	学校と家庭との連絡を緊密にするために、P T A総会や懇談会などを開催し、生徒の現状や指導についての情報交換を行い、指導に役立てる。 健全育成委員会と調査広報委員会のP T A委員会活動を通じて、教職員も含めたP T A会員間の交流、懇親を深め、情報提供や情報交換に役立てる。	A B	
	学外の関係役員との連携を密にし、生徒の活動を支援する。	学校評議員や同窓会の役員などに対して、体育祭や長商祭など学校行事等の情報提供を迅速に行う。	B	
生徒指導部	【生徒指導係】 生徒の基本的生活習慣の確立とともに、社会的マナー・規範意識の向上を図る。	服装・頭髪・遅刻防止・登下校時のマナー等の指導を年間を通じて重点的に行い、違反ゼロを目指す。 学期ごとに自転車街頭指導・バス乗車・駅周辺指導などを行う。 生徒の主体的な活動や自覚を促すために、生徒会執行部と連携を図り、生活・交通安全委員会活動を活性化させる。	B A C	
	全校での指導体制を充実させ、家庭や地域との連携を深めながら、多角的な生徒指導を実践する。	4月に警察署員等を講師に招き、講話を実施し、地域との更なる連携を深める。 P T A活動や保護者面談などを通じ、生徒の現状や指導についての情報を共有し、指導に繋げる。 職員の役割分担を作成し、登下校時の玄関指導・交通マナー指導・校内巡視などを学期ごとに行う。 学年・担任・部活動間で生徒の情報交換を密にし、保健室や教育相談・特別支援教育推進委員会等と連携し、全職員で共通理解を図りながら指導を行う。	A B B B	B
	【生徒会係】 学校行事への参加・協力を通して、各自が生徒会の一員としての自覚を深め、自主的にかつ実践的な活動ができるようにする。	体育祭の効率的な役割分担とともに、多くの生徒が体育祭の運営に携われるように工夫する。 長商祭のクラス・部活・生徒会や有志等の参加団体による企画の充実を図り、その円滑な運営に努める。 校内大会の競技への参加・応援を通して、クラスの団結をより一層深める。	A A A	A
	部活動及び各種委員	オリエンテーションを充実させ、部活加入率向上を目指す	B	

	会活動を通して、集団生活や社会生活におけるルールとマナーを学ぶとともに、学校生活の充実と向上に主体的に取り組む姿勢を育成する。	し、部活動のさらなる活性化に努める。 年度初めに委員会を開催し、委員長選出や委員会組織作りを行い、年間の活動予定を策定し委員会活動を、一層活発化させる。 有尚会役員のリーダーシップを育成する。 予算編成の見直し及びその執行のあり方を検討する。	A B A	A	
	図書館の読書環境の整備	さらに利用しやすい図書館にするために、椅子等の備品の整備・拡充に努める。 教科・学年と連携し、学習に役立つ資料の充実を図る。 コンピュータによる検索システムの整備を進める。	B A B	B	
	図書館利用の拡大	基本図書及び生徒・職員の希望図書を充実させ、図書館利用の活性化を図る。 資料を有効に活用してもらうため、適切な情報提供をする。 図書委員会の活動を促進し、利用者サービスの向上に努める。	A A A	A	B
保健環境部	健康診断・健康観察等を通して、生徒の健康状態を把握する。また、その事後処置を適切に行う。	健康診断・健康相談を実施し、速やかに事後処置を行う。 新型コロナウイルス感染予防や、生徒の健康状態の把握に努め、健康管理に役立てる。	A A	A	
	当面する健康問題について、指導を行う。心に問題を抱える生徒の発見と支援に力を注ぐ。	保健講話の実施や、保健だよりを通して、身近な健康問題について考えさせる。 生徒の話に耳を傾け、心の不調を抱える生徒の対応と、より良い支援に努める。教育相談・特別支援委員会との連携を図る。	A A	A	
	救急処置を迅速・的確に行う。	A E D講習会を実施し、救急処置を迅速・的確にできる方法を身に付けさせる。 熱中症対策の講習会を実施し、生徒の健康管理に努める。 養護教諭以外の保健環境部の職員も、適正な救急処置を行えるようにする。	A A B	A	A
	健康的で快適な環境作りを積極的に推進する態度を育てる。	清掃区域を決定し、清掃用具を整備・配置し、清掃活動が円滑に実施できるようにする。 月例大清掃を行い校内美化に努める。 大掃除時を利用し、屋外の美化に努める。 生徒が効率よく丁寧に清掃できるように指導する。 環境への関心を高め、ゴミの分別をきちんとできるようにする。	A A B B A	A	
	安全に配慮した生活ができるように指導する。	防災訓練を実施し、災害時において安全かつ迅速に避難できる方法を身に付けさせる。 各部屋に防火管理責任者をおき、施設、暖房器具の安全衛生管理を行う。	A A	A	
進路指導部		進路ガイドブックを活用し進路意識の高揚を図る。 講演会などを通じて、具体的な進路実現の方法について自ら考える機会を設ける。	A A		

		進路が決定した３年生から、進路決定までの努力や苦労、アドバイスを１・２年生に発表してもらい、充実した高校生活の指針とし、進路意識の高揚を図る。	A	A	
		校内企業説明会等ハローワークとともに就職に向けた取り組みを企画し、より積極的な就職活動が行えるようバックアップする。	A		
		全職員に模擬面接指導の協力を依頼する。マナーを重視した指導を行い就職試験に備える。	A	A	
		各学年と協力・相談し、適時性のあるテーマの講演会を	B		B
		小論文の組織的な指導を充実させる。	B		
		模擬面接指導を全職員態勢で行う。	A		
		生徒の進路実現に向けた学習指導を学年・教科と連携を図りながら計画を立案し、実行する。	C	B	
		進路決定後の大学入学前指導を含む基礎学力および学習習慣持続を目的とする指導を行う。	C		
		「進路ニュース」の発行	B		
		進路閲覧室の進路資料の整理	C		
		進路情報の定期的提供	B	B	
		進路と学年また学年間の情報の提供の充実	B		
		進路データの分析	B		
1 学 年	基本的生活習慣の確立など	基本的な生活習慣を確立し、部活動と学習とのバランスのとれた学校生活が送れる力や習慣を身につけさせる。 服装・頭髪等の身だしなみを整える習慣を身につけさせる。 人の話をよく聴き、メモをきちんととり、しっかり理解する力を身につけさせる。	A	A	A
	早期の進路意識の育成	進路講話（講演）、ガイダンス、面談などを通じ、自らの進路を積極的に考える態度を身につけさせる。 進路ガイドブックを活用し、進路意識をより高める指導を行う。	A	A	
	学力、教養の伸長	家庭学習の習慣を身につけさせ、各種検定取得を意識した学習習慣を確立させる。 TVニュースや新聞を見る習慣を身につけさせ、社会の出来事に関心を持たせる。そして、その出来事に対して自分の意見を持ち、発表することのできる力をつけさせる。	A	B	
2 学 年	基本的生活習慣の確立など	基本的な生活習慣を確立し、部活動と学習とのバランスのとれた学校生活が送れる力や習慣を身につけさせる。 服装・頭髪等の身だしなみを整える習慣と長商生としての自覚を身につけさせる。 人の話をよく聴き、メモをとるなどしながら、しっかり理解する力を身につけさせる。	B	B	
	進路意識の更なる育成	進路講話（講演）、ガイダンス、面談などを通じ、自らの進路を積極的に考える態度を身につけさせる。 進路ガイドブックを活用し、進路意識をより高める指導を行う。 オープンキャンパス等に積極的に参加し、情報収集を図り、進路実現に活用させる。	A	A	B
	学力、教養の更なる伸長	週３回の朝学習課題を行い、基本的な学力の定着を図る。また、家庭学習の習慣を身につけさせ、各種検定取得	B		

		に積極的に取り組む意識と姿勢を確立させる。 授業だけでなく、進路を見据えた更なる発展学習に取り組む意識を持たせる。 新聞や書籍を読み、考える習慣を身につけさせる。また、社会の変化や出来事に関心を持ち、自分の考えや意見を発表できる力を身につけさせる。	B	B	
3 学 年	社会性の更なる育成	服装・頭髪等の身だしなみを整える習慣を身につけさせるとともに、面接練習などを通して、適切な身だしなみについての考えを深めさせる。 人の話をよく聞き、しっかりと理解し、確実に実行するといった習慣を身につけさせることにより、基本的な社会性を培う。 基本的な生活習慣を確立し、部活動、係仕事、委員会活動、学校行事などへの積極的参加を促し、各活動を通して学び、社会構成員としての力を身につけさせる。	B		B
	進路意識の醸成	校内外の説明会、講演会、オープンキャンパス等に積極的に参加して情報収集を図り、進路実現に役立たせる。 進路に対する意識を高め、早めに進路計画を立案させ、進路希望の実現にむけて努力させる。	B	B	
	学力、教養の更なる伸長	授業だけでなく、進路や将来を見据えた更なる発展学習に取り組ませ、生涯の学習姿勢へとつながっていくよう意識を持たせる。 書籍や新聞などを読み、考える習慣を身につけさせる。	B	B	
			B		
国 語 科	授業内容の充実	授業進度、指導内容等を綿密に打ち合わせ、授業内容の充実を図る。	A		A
	基礎学力や考える力の向上	課題ノート、課題プリント等の活用や、漢字小テストの継続的な実施によって、基礎学力や考える力を向上させる。	A		
地歴公民科	生徒が意欲的に取り組める授業	資料プリントや視聴覚教材などを活用し、生徒の興味・関心を喚起する授業に努める。	B		B
	社会に主体的に生きる資質の育成	授業内容を精選して充実を図り、資料を活用して社会への関心を高める授業に努める。	B		
数 学 科	授業内容の充実	授業進度、指導内容等を綿密に打合せ、授業内容の充実を図る。	B		B
	基礎学力の向上	課題プリントや問題集を活用し、基礎学力を向上させる。	B		
理 科	学習意欲を高める	生徒実験・観察実験の他、資料プリントやビデオを活用して、学習内容に興味・関心を持たせる。	B		B
	基礎学力の定着	小テストの反復的な実施や、課題プリント等を活用して、基礎学力の定着を図る。	B		
英 語 科	基礎学力の定着	課題を課すなどして、学習習慣の定着を図る。 また、授業内で小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	B		B
	学習意欲を高める	各種資格検定を活用し、英語学習に興味・関心を持たせる。	A		
保健体育科	体育授業を通じて、将来、社会・会社など	輪番制の体育当番を行うことにより、授業時の全体への指示やクラス内・クラス間のリーダーシップとフォロアー			

	の一員として活躍するために必要な規範意識・礼儀・マナー・協調性を養う。また、集団において責任ある行動を学ばせる。	シップの重要性を理解させ、協力的態度や協調性を身に付けさせる。さらに、体育当番による集団行動の動きを洗練させ、集団内における実践力を養う。 また、体育準備室への入室マナーを徹底させることにより、挨拶・敬語の使い方や普段用語との差を認識させ、試験での面接や社会の現場で活用できるように指導する。	A	A	
	生涯を通じてスポーツに親しむための興味・関心の向上と体力・技術の充実	新体力テストの継続実施により、自己の体力を深く理解し、生涯を通して自己の体力向上に向けて実践できるように指導する。 各種目に繋がる補強運動を工夫することにより、総合的な体力の向上を図り、コロナ禍における新生活様式にも対応できるような実践力を養い、意識の向上を図る。	B	B	A
	生涯を通じた健康の保持増進	教科「保健」を通して、現代の社会情勢から想像できる未来の生活に向けて、生涯に渡る自身の健康について考えさせ、理解を深める。また、新生活様式に対する正しい生活習慣を理解させながら、多角的に指導する。	A	A	
家庭科	生活の営みに関わる見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な知識と技術を習得し、男女が協力して主体的に創造する力を養う。	実生活に関連した教材の工夫により、家庭や地域の生活について意欲・関心を持たせ、生活課題について問題を解決する力や論理的に表現する力を身に付けさせる。 学校家庭クラブ活動等との関連を図り、体験的な活動を取り入れることで思考を深め、主体的に判断し自ら行動できる力や実生活より良く創造できる力を身に付けさせる。 実験・実習を中心とした指導を行い、習得した技能を実生活に生かせる力を身に付けさせる。 家庭や地域の生活を充実向上できる基礎的・基本的な知識・理解を身に付けさせる。	A	A	A
芸術科	基礎的技法の習得	基礎的技法を体験し、創意工夫のある表現を目指す。 作品完成時の充実感や達成感を味わえるように工夫する。	A	A	
	表現、鑑賞を通し芸術に親しむ気持ちを育てる。	校内に発表の場を作り、互いの作品を鑑賞することで、表現活動への関心・意欲を高める。 様々な作品を鑑賞し、生涯にわたって芸術を愛する心を育み情操を養う。	A	A	A
	独創的で個性豊かな表現を目指す。	自己を見つめ、制作意図や表現内容を深めながら、一人一人の個性を活かした創作活動に挑戦する。	A	A	
商業科	ビジネス教育の推進とビジネスマナーの習得	地域産業を担うために必要なビジネス教育とビジネスマナーの知識および態度・コミュニケーション能力を身に付け、体験的な学習を通して、社会の変化に対応できる、豊かで創造性の高い、主体的な人材を育てる。 1年 ビジネスの基礎・基本の定着を図り、ビジネスマナーの必要性と知識を深めるとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。また、ガイダンスを充実させ将来の目標設定をさせる。 2年 マーケティングの販売実習などの体験的な学習を通してビジネスの基礎・基本、ビジネスマナーの定着を図るとともに、地域の方との交流を積極的に行う。 3年 総合実践・課題研究を通して、ビジネスマナーの習得とコミュニケーション能力の育成を図り、今まで学んできた知識が体系的であることを理解させ、ビジネスの諸	A	A	

		活動を主体的、合理的に行う能力と態度を身に付けさせる。			A
	わかりやすい授業、満足できる授業の工夫・研究	生徒の学習意欲を伸ばし、生徒にわかりやすい授業を行うよう工夫・研究に努める。また、家庭学習の習慣化が図られるよう各科目で工夫をする。 授業進度、指導内容の綿密な打ち合わせを行う。 学習ガイダンス等により学ぶ目的の明確化を図る。 遅進者に対する指導や補習授業を実施する。 独自のプリント等を活用し、生徒の理解がより深まるよう工夫する。	A	A	
	将来の進路につながる専門教育の深化と高度な資格取得	分掌・ホームルーム・他教科との連携を図り、進路実現につながる上級の資格を取得させ、専門教育の深化を図るよう努める。 1年 「ビジネス基礎」をはじめとした学習ガイダンスを充実させることにより、学ぶ目的を明確にさせる。 2年 商業の各分野における幅広い科目履修により、応用力を身につけ、進路実現に結びつける資質を養う。 3年 将来のスペシャリストを目指し、生涯学習への動機付けを行い、進路実現を果たす。	A	A	
成 果		○生徒の授業への興味・関心を持たせるためのタブレットや電子機器を使った授業展開が昨年に比べ多くなった。 ○魅力ある学校づくりとして、長岡CATの取組や情報ビジネス科の最後のCM発表会を行い成果をあげることができた。来年度は、より多くの地域活動に積極的に参加し、生徒の興味関心や、学校での授業展開に繋げていきたい。 ○学校行事などは制約はあったが、全て行うことができ良かった。来年は、以前の活動により近づけ、生徒の自主的な活動が出来るような活動に繋げていきたい。 ○今年も生徒・保護者にメールでの連絡配信を実施することができた。来年度は、全保護者の登録とよりタイムリーな情報の発信に努めていきたい。 ○進路指導は学年毎に計画的に進められ、ある程度の成果を得ることができた。 ○今後は、生徒が相談しやすい相談体制や仕組みの充実に取り組む。また、生徒が興味関心を持って、安心して学習に取り組める環境作りに取り組んでいく必要がある。	総合評価		
			B		